

## 小泉大臣御発言（定例会見）

### 【米の価格について】

#### ■ 6月3日（水） 定例会見概要

（記者）昨日の夜、入札備蓄米の都道府県別の店頭価格が発表されておりまして、高いところだと4,000円を超えていて、低いところだと2,000円台というところがありますが、なぜこういう差が生じているのかという見解と、これに対して何らかの対応を考えているのかというのも教えてください。

（大臣）（前略）その上で最低価格が全国で2,980、全国最高価格4,480円と、こういった形で約1,500円の開きがあるという状況はよく分析が必要ですけども、まず、このような情報をしっかりと提供して、今POSデータの方も出ていますし、こういった地域別の店頭の価格というのを、できる限りリアルタイムで提供するという事で、今のマーケット全体がどういう状況になっているのかを正確に把握する一助になればというふうに思います。（中略）**備蓄米をなぜ放出しているのかというところは、まさに今日の朝日さんの一面で、民間の外国産米の輸入が、このコメの高止まりを放置すればどんどん入ってくると。80倍ですよ、朝日さんが出しているのは。なので、高止まりを放置すれば、おのずと棚は外国産米に埋められていく。こういったことを食い止めるために、備蓄米の放出もやっているのだということを改めてお伝えをさせていただければと思います。**

#### ■ 6月6日（金） 定例会見概要

（記者）大臣自身のお考えとしては、農家の所得を確保する政策と、それから米の値段を、安く安定的にするというのは別々で考えたほうがよいというふうにお考えでしょうか。

（大臣）短期で言えば、今やはり高過ぎるところはいえると思いますので、1年で2倍上がっていますから。まずはここを抑えていくということを通じて、**しっかりと生産者の皆さんが、これからも意欲を持って米づくりに営めるという、価格水準はどこなのか、そして消費者の皆さんにとっても安心してお米が買える。こういった水準はどこなのか、これを一致させていくことが非常に重要だと思っています。**今、すでに高止まりをしている中で、輸入米がどんどん増えています。そして今、外食産業も含めて、輸入米を引き続き使いたいどころか、むしろもっと使いたいという声が届いています。こういったことも考えれば、改めて今、随意契約を活用して、備蓄米を放出をするということの思いを、これは生産者、消費者の皆さん双方にしっかりと説明をすることが大事だと思っています。

## ■ 6月27日（金）定例会見概要

（記者） MA 米について、SBS 枠の主食用米の入札が、今日からこの後前倒して始まると思うが、改めてねらいを教えてください。

（大臣）（前略）まずは米の価格の高騰を抑えて消費者の方に安心していただいて、米離れを防ぐことが重要だと考えていますので、SBS 米、今回、入札前倒しということで実施することといたしました。今回落札された SBS 米は早ければ9月末にも輸入されることになりますが、この時期に輸入される米は、近年の SBS（米）の多くを占めるアメリカ産の場合は、古米となりますので、令和7年産の新米と合わせたこの時期で懸念をされたり、心配をされている米農家さんに対して、「新米とは別です」ということもあわせてお伝えをしたいというふうに思います。ですので、令和7年産米については新米としての評価がなされて、これまでの生産段階のコスト上昇や、その時の需給状況なども反映して、価格が形成されるものと考えております。

（記者） 実際、比較的安い輸入米が市場に流通することで全体の価格下げるねらいがあると思うが、そういう見通しも大臣として持っているのか。

（大臣） これは、よく輸入米に触れると相当混同された情報、そして発信などがされることがあるんですけど、先ほど私が申し上げたとおり、一番伸びているのは民間が独自で、政府が介在せず、外枠の中で高い関税を払ってでもなお輸入をするという、こういったことが起きているのが一番大きな変化です。そして、その部分については、なぜそのようなことが起きるかと言えば米価が高いからです。「高い関税を払ってでもなお、外国産米を使おう、そして売ろう。」こういったことを食い止めなければ、米農家さんの心配は解消できないというふうに思いますので、今回 SBS（米）の入札の前倒しから、そして、MA 米の一般の方の前倒し。こういったことは、この枠を増やす話をしていませので、どうかここは正確な、ご理解も、そして発信もしていただきたいなど。我々としては、丁寧にそういったことも含めてお伝えをしたいと思います。

（記者） 生産調整をやめて増産した場合に、中長期的に見た場合、米価が下がる、再生産することができなくなるという不安が農家の間にはあると思っています。総理は先日の記者会見で、令和7年産、8年産の米価が下落した場合の所得補償について前向きな発言をされたと認識されています。またその際に、生産者側もコストの低減や輸出への努力、こういったことが必要だとおっしゃってありました。所得補償と、いわゆる支援の条件ということとなるかと思いますが、これについて大臣のお考えをお聞かせください。

（大臣）（前略）様々なセーフティネットのアイデア、こういったものもありますので、今後、令和9年度産以降から水田政策大きく変わりますので、これに向けて、率直に与野党の垣根を越えた議論を、我々も踏まえた上で、決めていきたいというふうに考えています。

収入保険の話もあります。この収入保険についても、見直すべき

ところがあれば、こういったことだって考えていかなければいけないことでもありますので、まず、今の米価高騰を落ち着かせながら、令和 9 年度の水田政策の転換に向けて、丁寧な議論をしていきたいと思います。どうか農家の皆さんにおかれましては、このセーフティネットの議論も同時並行で進めると、こういったことはお伝えをしておきたいと思います。

(記者) 所得補償、いわゆるセーフティネットの検討というのは、基本的には令和 9 年度の新制度から一緒にスタートするものであるというようなスケジュールで進めていこうというお考えなんですか。

(大臣) これは基本的にはそういうことになります。たぶんこれも、少し不安に向けたものが、今の目の前の不安と中長期の不安と両方あるのではないかなと思っているのは、例えば今は備蓄米の放出によって米価の沈静化、ここをやっていますので、米農家さんからすると、これが下がり過ぎたらどうするんだという不安が 1 つあると思います。これに対しては、我々ずっと国会でも言っていますけども、今回、マーケットが落ち着いたときに、放出した量と同じ量を備蓄水準を戻していく、そういったことをやりますと、これを言っていますので、そこは正確にお届けしたいと思います。中長期に向けてどうするかということは、まさにこれから生産調整のあり方をどうするか。そして作りたいという意欲を持っている方が、より増産に向けて取り組んでもなお、経営の安定が見通せるような支え方をどうするか、これこそまさに、令和 9 年度に向けて議論していかなければいけないことなので、それは両方対応するための議論を進めていきますと、こういったことを理解いただきたいと思います。

## 【土地改良について】

### ■ 6月6日(金) 定例会見概要

(記者) 農家への所得補償について。民主党政権が掲げていた農業者戸別所得補償制度による予算が減っていき、土地改良事業(農業土木)予算が増えていったが、これは失敗だったというご認識なのか。農水族(農林関係の与党議員のことと思われる)に押し切られて、本当は農家に評判の良かった戸別所得補償制度に係る予算がどんどん削られてしまった、という忸怩たる思いがあれば、お伺いしたい。

(大臣) 今の立憲民主党や国民民主党にも、当時戸別所得補償制度に関わった議員がいるが、同じことをやろうと考える方はいないと考えている。当時、土地改良予算を相当削った結果、規模拡大や集約化といった農業の構造転換に対する歩みを止めてしまった。今やらなければいけないことは、土地改良も含めた基盤整備。そのような状況下で、また民主党政権当時の方針に戻すことはない。(後略)